

ささやまの森公園だより



昨年度プログラム 稲作体験 第1回「隠し田を耕そう」(2023年4月)

「福の神」が住む奇跡の公園『ささやまの森公園』

「福の神」が住むここ福住に、県立ささやまの森公園ができて22年。私事、実は福住は地元であり、20数年前に県立の里山公園ができるとの噂を聞き、他人事のようで失礼ながら田舎に里山公園が必要なのかと、当時かなり懐疑的な気持ちでした（ゴメンナサイ）。

そして時は流れ、当公園近隣に位置する県立農業高校である篠山東雲高校長に10年前に着任。農業高校生が考える里山づくりをキーワードに、当公園を学びのフィールドとして活用させていただき、それ以来ありのままの自然と触れ合える当公園のとりこに。何せ、造形物は全て手作り。ささやまのありのままの自然が息づく公園そのものの魅力がありました。以来、ことある度に足を運ぶこととなります。そして、いよいよ昨年4月、縁あって、当公園長に着任する運びとなりました。近くにあつて遠かったささやまの森公園に、昨年よりどっぷりつからせていただくことになりました。

この一年、人生60年過ぎて、今までふるさとのこと、福住のこと、況してや地元にある公園の魅力や素晴らしさにこれまで目を向けてこなかった自分の姿を恥じることになりました。

ここまでの私事、拙文お許しください。

ここから、ささやまの森公園の魅力紹介です。

ささやまの森公園、ここにはささやまならではの素晴らしい自然があります。クリンソウ、ササユリ、ナツツバキ、サギソウ等

の稀少植物。ヒメボタル、モリアオガエル、グンバイトンボ、ミヤマクワガタ等の稀少生物類。オオムラサキ等の稀少蝶類や、絶滅種であるアカショウビンやサンコウチョウの野生鳥類。そして、昨夏は、ヤイロチョウが営巣し、雛が巣立つ公園として大々フィーバーしました。このように、絶滅危惧種を含む、希少動植物が育つ、奇跡の里山公園なのです。これだけの稀少種が見られるのにはもちろん秘密があります。お知りになりたい方、是非公園へお運びください。

もう一つ、当公園には、丹波篠山の自然が生んだ偉大な猿博士である、河合雅雄先生のエッセンスが随所にちりばめられています。先生には、当公園設立を先導いただき、先生が生涯通して言葉にされた「森が学校」のスローガンが、公園に脈々と息づいています。その河合先生をお慕いし、当公園を愛して止まない素晴らしい活動スタッフの皆さんも、当公園を語る上で欠かせません。

みなさん、一度ならず足をお運びいただき、ささやまの森公園の散策路や登山道を味わってみてください。森に入ると、奇跡の公園の鼓動が感じられます。

森の息づかいを体感いただくと、奇跡の公園の秘密が分かるかも……。

兵庫県立ささやまの森公園長
奥田 格

絶滅危惧種 「ヤイロチョウ」の巣営

絶滅危惧種に指定されている「ヤイロチョウ」の巣営が、ささやまの森公園で確認されました。ヤイロチョウは熱帯系の野鳥で、日本へは夏鳥として飛来し子育てを行います。スズメよりも大きくハトよりも小さくとても鮮やかで美しい羽を持っていることから八色鳥の名があります。

繁殖活動が観察できるのは大変珍しく、連日多くの野鳥愛好家の来園があり、関西方面はもとより普段見かけることが少ない関東方面や九州方面のナンバープレートの車で駐車場は連日満車でした。7月の来園者数は約7,400人で、前年同期の約3.5倍でした。8月上旬には無事ヒナが巣立ち、今年もまた来てくれることを期待しています。



灰小屋の完成と火入れ

丹波篠山の里山のあちらこちらで「灰小屋」と呼ばれる土壁などで作られた簡素な小屋が今でも見ることができます。「灰小屋」の中で、ワラや枯草、落葉などを焼き、その灰を田畑の作物の肥料として利用してきました。

ささやまの森公園では、灰小屋の復活に取り組み公園内に設置した灰小屋で火入れを行いました。今後、灰小屋で作った灰肥料を園内の畑で利活用する予定です。

森の学校に第16期生を迎えて

豊かな自然の中でさまざまな体験活動を通して、たくましく生きる力を育むことを目的に、小学3年生～6年生の14人が1年間、普段の生活とは違う里山での自然体験活動を経験しました。

ボランティアスタッフの指導のもと、体験学習を通してたくましさを育むことができました。



トライやる・ウィークの受け入れ

ささやまの森公園では、「職場体験を通して地域について学び、生きる力を育む」ことを目的に丹波篠山地域の中学2年生による「トライやる・ウィーク」を受け入れしています。

今年度は6月8日から17日の8日間、篠山東中学校から2年生5名が来園し、木名札作り、看板作りや補修、プログラムのサポート、梅の収穫などの体験をしました。



インターンシップの受け入れ



ささやまの森公園では、高校生の皆さんに就業体験を通じて、公園の仕事に共感していただけるよう、インターンシップ実習生の受け入れをしています。

1月23日～27日の5日間、篠山東雲高校の2年生1名が散策路の整備やチェーンソー安全教室に使用する木材の運搬などの体験をしました。

兵庫県立 篠山東雲高等学校の 授業「里山文化」

「里山と人々の生活から生まれた多くの文化を学び、自然や資源、生きていく環境、農業との関りについて考える」選択授業「里山文化」について連携協力ができました。



「水源の森たんばささやま」 除伐作業



兵庫県、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、兵庫丹波の森協会の三者で結ばれた森林管理協定に基づき、本公園の森林を「水源の森たんばささやま」として、整備計画に基づいた人工林の間伐などが行われています。

今年度もコカ・コーラボトラーズジャパン明石工場の従業員ボランティアやその家族がエリア内の除伐作業を行いました。

午後は活動スタッフの指導でウッドクラフトに挑戦しました。

第1回4月8日・第2回29日

稲作体験 (全5回)

隠し田を耕し、代かきをしました。
子どもたちはイモリや青ガエルなどを見つけ大騒ぎ
でした。



5月3日~4日

春の特別企画

窯でピザ焼き、コケテラリウム作り、
ウォークラリーなど
天候にも恵まれ多くの方々に来園していただきました。



6月4日

シカの角で アクセサリを作ろう

シカの角を使ってキーホルダーなどのアクセサリ
を作りました。



7月15日

森の時計づくり

公園の間伐材や木の実などを使って家型の時計を作
りました。



8月12日

水辺の生きものを探そう

ペットボトルで魚をとるワナを作り、川で生き物を
採集しました。



9月18日

ロケットストーブを 作ろう

一斗缶で熱効率が高い薪ストーブを作りました。



10月1日

樋口清一氏 講演会

初代公園長である樋口清一氏に「篠山の注目すべき自然と牧野富太郎の篠山に於ける足跡」と題し、お話をいただきました。



11月12日

秋の里山まつり

4年ぶりの開催となりました。あいにくの空模様でしたが、たくさんの方に来園いただきました。



12月17日

しめ縄を作ろう

メガネ型を作りました。



1月13日

とんど祭&もちつき大会

とんど祭の後、杵と臼で餅つきを体験しました。子ども達が公園の畑から収穫して作った大根おろしで食べたお餅も好評でした。



2月24日

親子で薪割り体験

～冬 Ver.～

親子で薪割りと柴づくりを体験しました。作った薪で火起こし体験やお湯を沸かしカップ麺を食べました。



3月3日

布スリッパを作ろう

専用の布を編んでカラフルなスリッパができました。



団体プログラムの展開

幼稚園から大学までの学校組織や団体の活動の場として公園を提供しています。自然観察や各行事の趣旨を生かしたプログラムを支援することで、里山のすばらしさ大切さを広めました。

20団体 515名（1月末日現在）

※森の学校、里山文化授業、トライやる・ウィーク、高校生インターンシップの受け入れを除く



丹波篠山市立多紀小学校4年生 水辺のいきもの観察



丹波篠山市立西紀小学校2年生親子活動 シカの角でアクセサリー作り



コカ・コーラ明石工場 ウッドクラフト

園外活動等への参加

活動スタッフさんの協力により外部のイベントに参加しています。ささやまの森公園の活動をPRすることができました。

ポスターセッション

- ・開催日及び会場 9月2日（土）丹波の森公苑
1月19日（金）四季の森生涯学習センター
- ・内容 丹波地域環境パートナーシップ会議に於けるポスターセッション（パネル展示等）



ひょうご里山フェスタ 2023

- ・開催日 10月22日（日）
- ・場所 姫路大手前公園
- ・内容 活動スタッフ3名が「ウッドバーニング」で参加



2023 丹波の森フェスティバル

- ・開催日 10月29日（日）
- ・場所 丹波の森公苑
- ・内容 活動スタッフ6名が「草木染め」で参加



福住祭

- ・開催日 11月19日（日）
- ・場所 篠山東雲高校
- ・内容 活動スタッフ3名が「シカの角でアクセサリーを作ろう」で参加



スタッフ活動に参加して

森の学校に参加して

森公園は、私の散歩コースの一つである。

玄関先の木造モニュメントは、河合雅雄先生と相棒のサルに代った。来園者を真っ先に出迎えてくれるのがこの木像、いい按配に変色し、生前の雅雄先生が立っておられる様だ。

縁あって、森の学校スタッフの手伝いに。私は小学生と同格の高齢生徒。ここの自然＝森が、正に学校フィールド兼先生。そこに専門知識や腕に覚えありの名スタッフが加担されるので、私は毎回、感動と驚きの連続。七十年以上生きてきて、ここではまだ初見や初体験ができる。参加している小学生の目の輝きや満足した笑顔。そこから湧き出る感激の言葉。屋内に居てゲーム等の無機質な画面と対面している子ども達とは、別世界の生き生きとした本来の子どもの姿。その姿に感動する心呼び覚まされ、張りが生まれ幸福感まで頂ける。空っぽの引き出しに入れる沢山の宝物を頂いた。

参加する＝学ぶが実現する『森の学校』は、ここささやまの森公園のいつまでも続けてほしい名物プログラムである。

活動スタッフ 田中 さゆき

「それは、噛む柴（タムシバ）や。噛んだら甘い。」
「これは、馬鈴草（ウマノスズクサ）」・・・。「竹林は、番傘さして歩け」「尾の木は伐るな」・・・。ささやまの森に来ると、多様性などSDGs だのと言わなくても、「ヒト」としての暮らし方・文化から生まれ伝えられてきたことが浮かびます。これらは、時代の変化とともに消えゆく運命（？）の文化なのかもしれません。

消えゆく文化といえ、丹波篠山にしか残っていない、お苗菊（古典菊）の保存と継承に関わっているのですが、文化の継承には「人の手」が欠かせないことを、その活動の中で痛感する日々です。

年々開けにくくなっている数少ない引き出しが、森の文化の継承に必要な「人の手」に、新しい楽しみ方や学びのお手伝い役になればと思っています。

「ささやまの森は、あたたかい」森を訪れる誰にも、そうあって欲しいと願っています。

活動スタッフ 岸田 士郎

里山クイズ

ささやまの森公園にも多く生息し、「タヌキ汁」のタヌキ、「同じ穴のムジナ」のムジナを表す動物は何でしょう。自分で巣穴を掘って、冬は冬眠します。狩猟の対象となり、昔は貴重なタンパク源でした。さて、何番でしょうか。

- ① ツキノワグマ ② アナグマ ③ アライグマ



クイズの答えと住所・氏名・感想（誌面又は公園に関する）を書いてハガキ・FAX・メールで「ささやまの森公園」まで送ってください。（メ切：令和6年4月30日）正解された方には、抽選の上「公園オリジナルのエコバック」をプレゼント。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

活動スタッフさんを募集しています

週末や祝日に行われるプログラムの企画運営をお願いしています。5班（里山復元・里山伝承・里山体験・自然学習・レクリエーション）のいずれかに所属し活動していただけます。開園時間中は随時お申し込みが可能ですので、ご興味がおありでしたら事務室にお電話ください。



ファン倶楽部員募集

公園の運営をご支援いただける個人・団体のファン倶楽部員（会員制）を募集しています。

【一般会員】（個人） ●年会費 1,000円 ●特典 情報提供、特別行事参加

【ふるさと会員】（個人） ●年会費 10,000円 ●特典 情報提供、特別行事参加、特産物（栗、枝豆、黒豆、山の芋）送付

※詳しくは事務室にお尋ねください。



春の里山まつり

令和6年 4月14日(日) 10:00~15:00

ウッドクラフト、昔のおもちゃ作り、草木染め、森のバザー、ステージコンサート、ビンゴゲーム、窯でピザ焼き・コーヒー・焼きそば・カレーなど食べもの、お茶席(篠山東雲高校)、食品販売(篠山東雲高校) など

お楽しみに!

森の学校 第17期生 募集!

開催期間 令和6年 5月11日(土)~令和7年 3月1日(土)

年度を通じ10回の自然体験活動を行います。

活動場所 兵庫県立 ささやまの森公園 (お子様の送迎は保護者の方にてお願いします。)

対象年齢 小学3年生~6年生
(山登りなど自力で自然体験活動ができる体力が必要です。)

募集人数 15名(応募多数の場合は抽選)

参加費 年間 8,000円(傷害保険料を含む)

申込期間 令和6年3月26日(火)~4月7日(日) 必着

◇参加お申し込み・お問い合わせは公園事務室までお願いします。

豊かな自然の中で、
さまざまな体験活動
を通して、たくましく
生きる力を育てる。

森のやまやま

4年ほど前から公園玄関に据える干支のオブジェ作りをさせていただいています。令和6年辰年は「黒龍」を制作しました。黒龍は水の神様、北方を守る神様とされています。八幡谷周辺では、深山などの山々から灌漑用水や生活水を得ています。また加古川水系の源でもあります。北側に位置する周辺の集落を守り、水源を守ると言う意味で「黒龍」としました。また、色の三原色を合わせると黒になり、萬物の様々な色を合わせると黒になる事から、世の全てを見守ってくれると言う解釈もあります。今回は新たな森づくりの整備で伐倒された木に敬意を表し、株と根で制作しました。森の資源の大切さを伝えていければと思っています。

(F)

日ごろからささやまの森公園の森は豊かだなあと思っているのですが、昨年それを裏付ける出来事がありました。園内で「ヤイロチョウ」という珍しい野鳥のヒナが6羽も巣立ったのです。普通3羽くらいまでしか巣立たないと言われているので、それだけミミズなどのエサが豊富であるといえます。

また、丹波篠山は日本3大猪肉の産地で、昔から美味しい猪が捕れるところで有名です。これも豊富なエサがなせる業だと思えます。

豊かな森の魅力を今年も生きものたちが教えてくれそうに楽しみです。(N)



第27号 ささやまの森公園だより(年1回発行)

◇発行日/令和6年(2024年)3月19日

◇発行/(公財)兵庫丹波の森協会
兵庫県立ささやまの森公園

〒669-2512

兵庫県丹波篠山市川原511-1

TEL(079)557-0045/FAX(079)557-0201

Eメール: csr@sasayamanomori.jp

ホームページ: <https://www.sasayamanomori.jp/>

